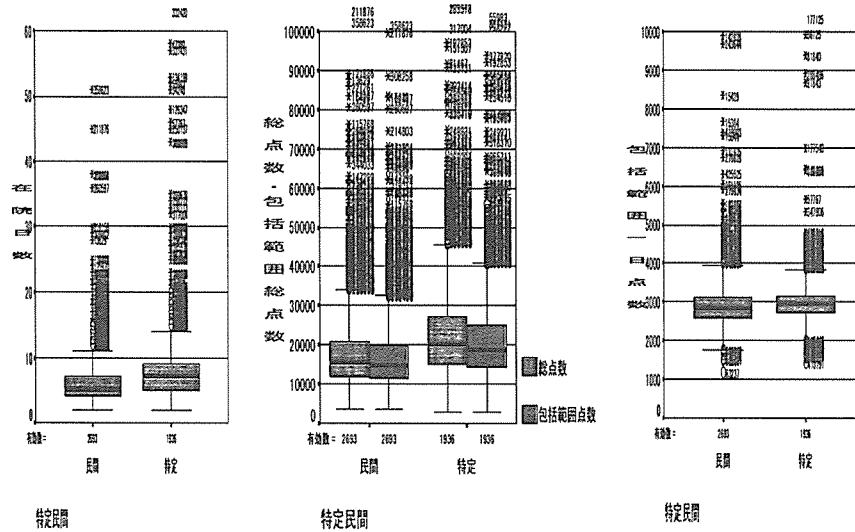
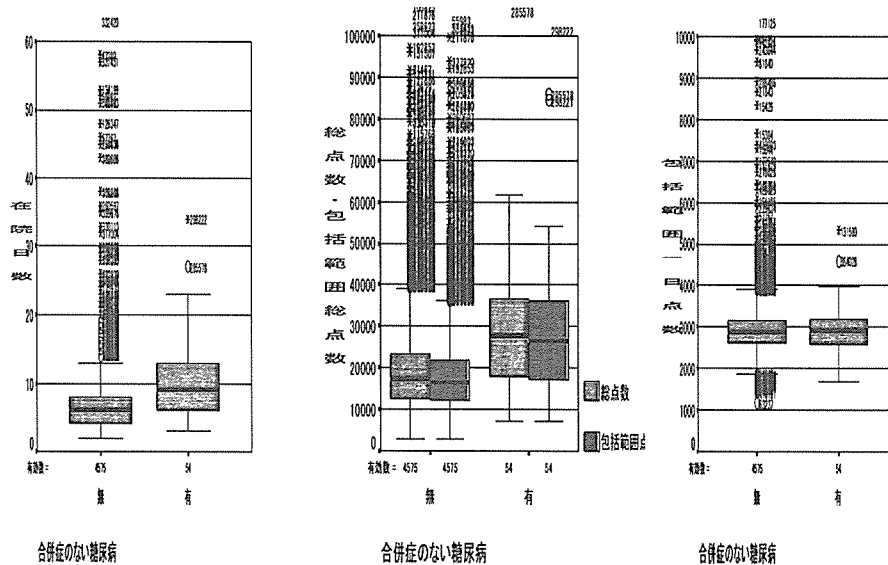


図B群(施設機能)

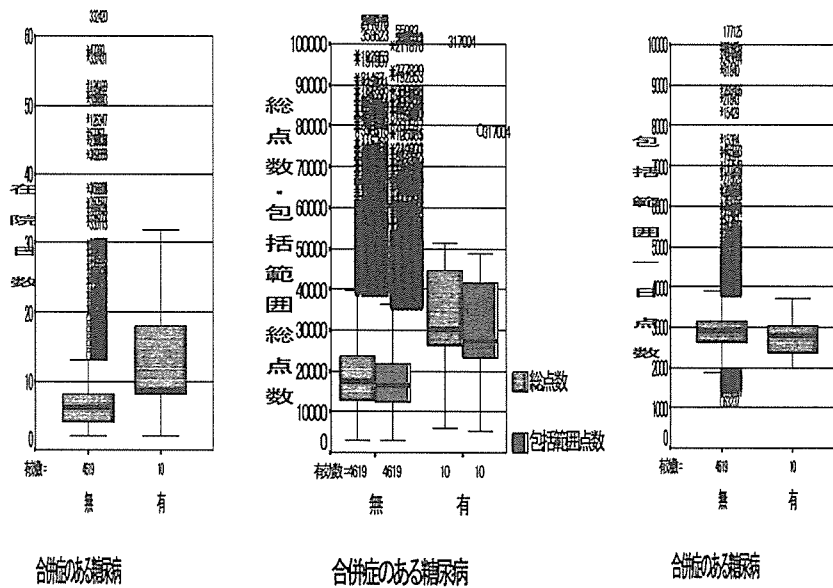


慢性併存症

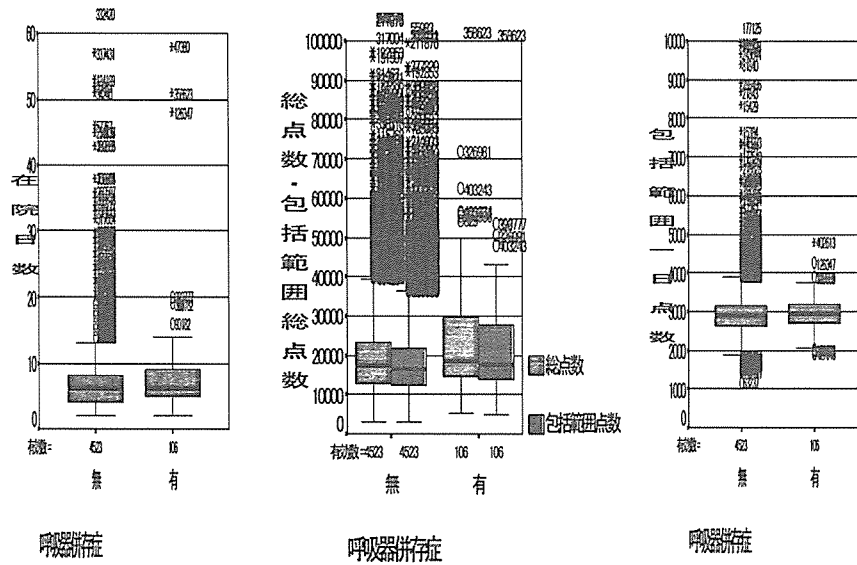
図B群(合併症のない糖尿病)



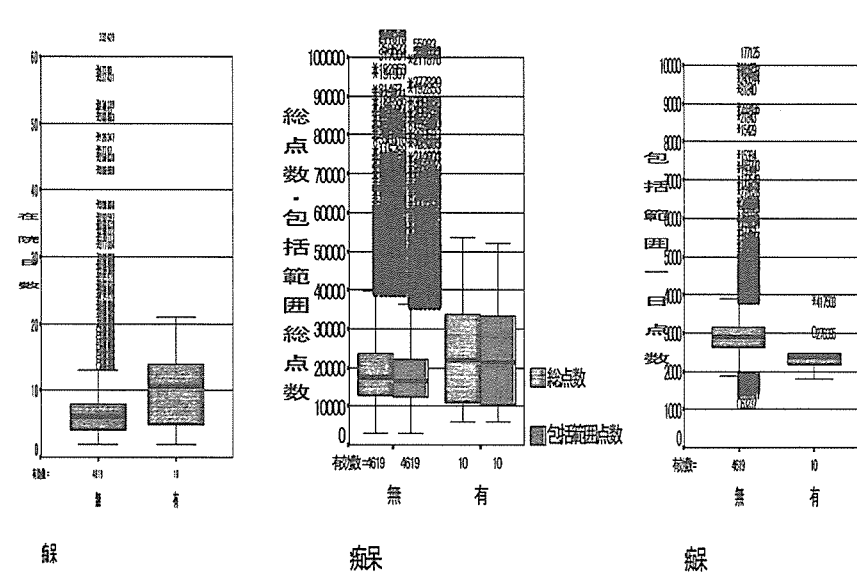
図B群(合併症のある糖尿病)



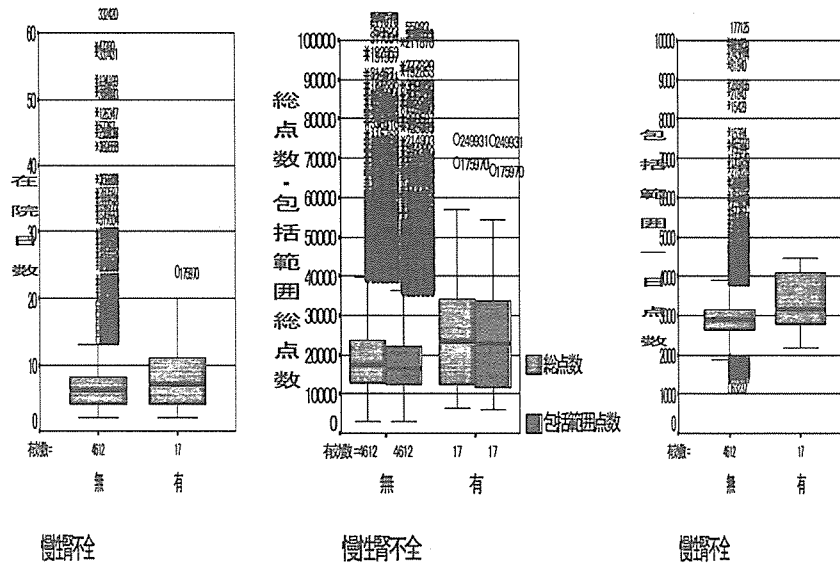
図B群(呼吸器併存症)



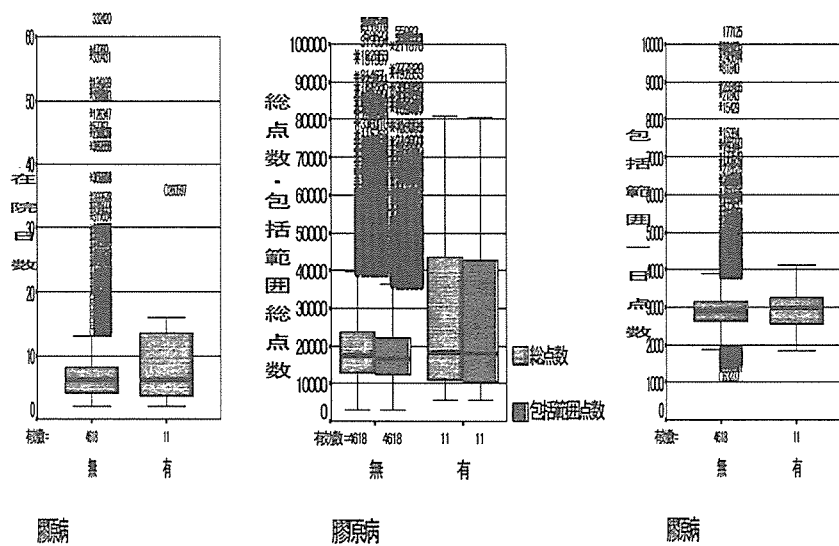
図B群(痴呆)



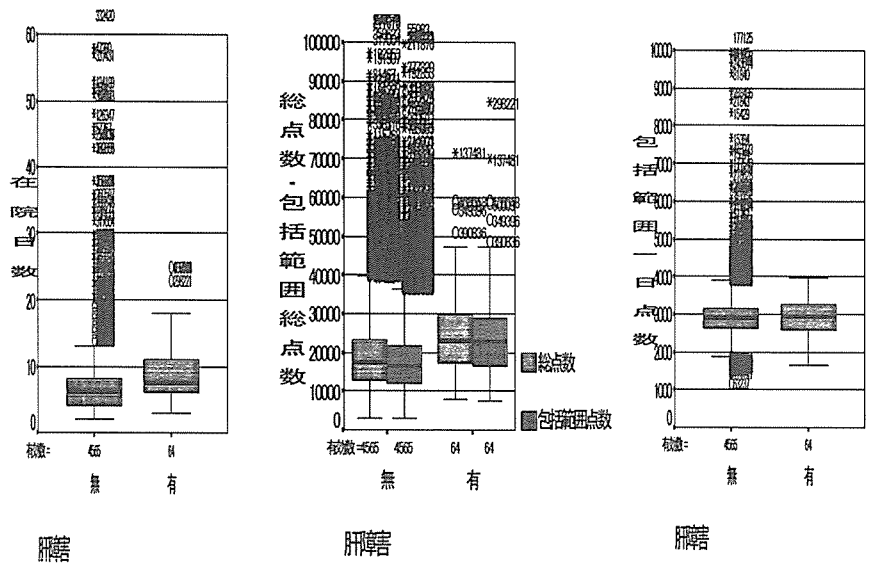
図B群(慢性腎不全)



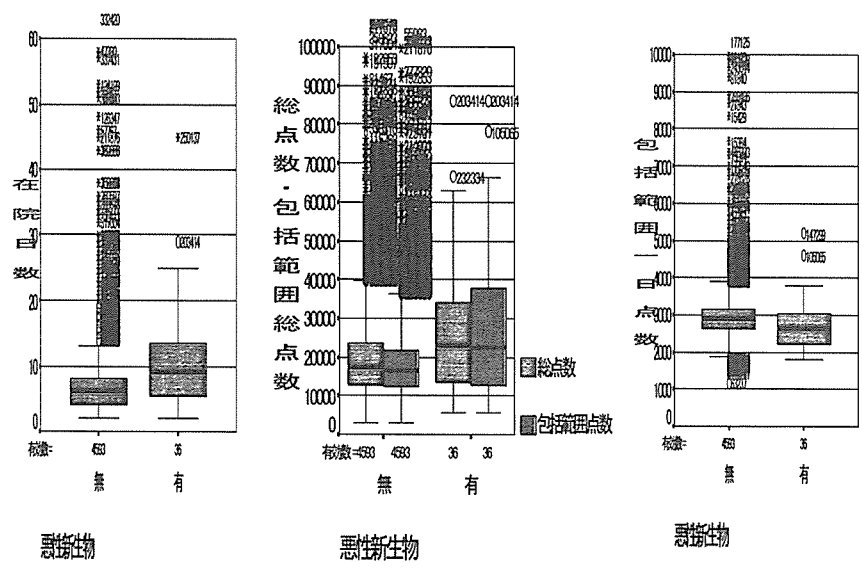
図B群(膠原病)



図B群(肝障害)

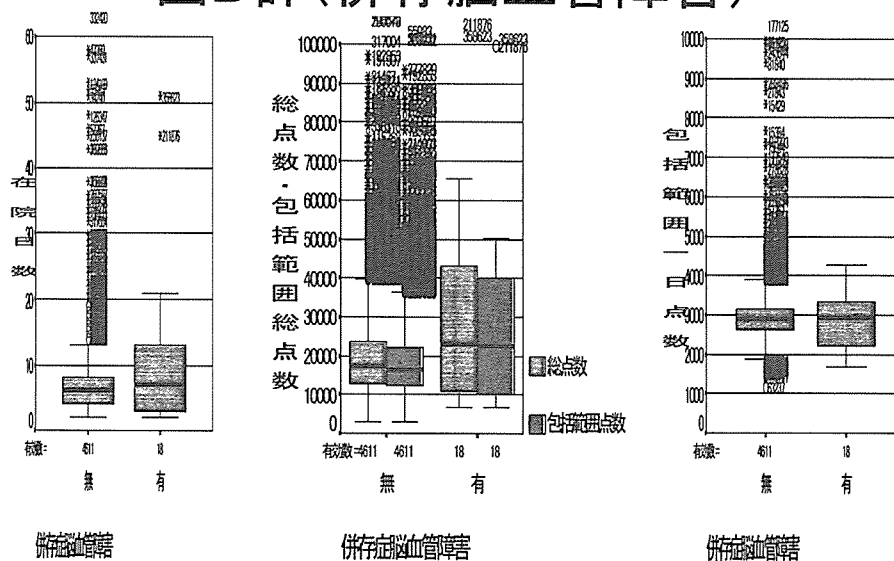


図B群(悪性新生物)

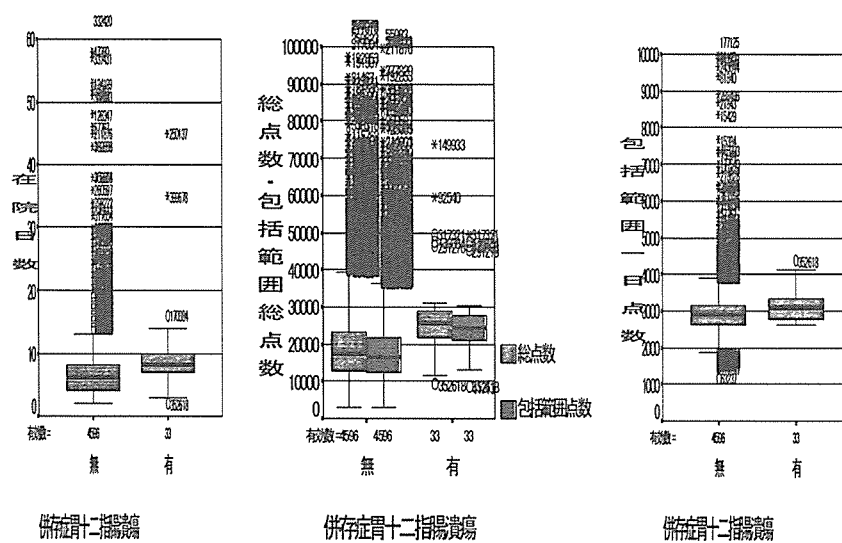


急性併存症

図B群(併存脳血管障害)

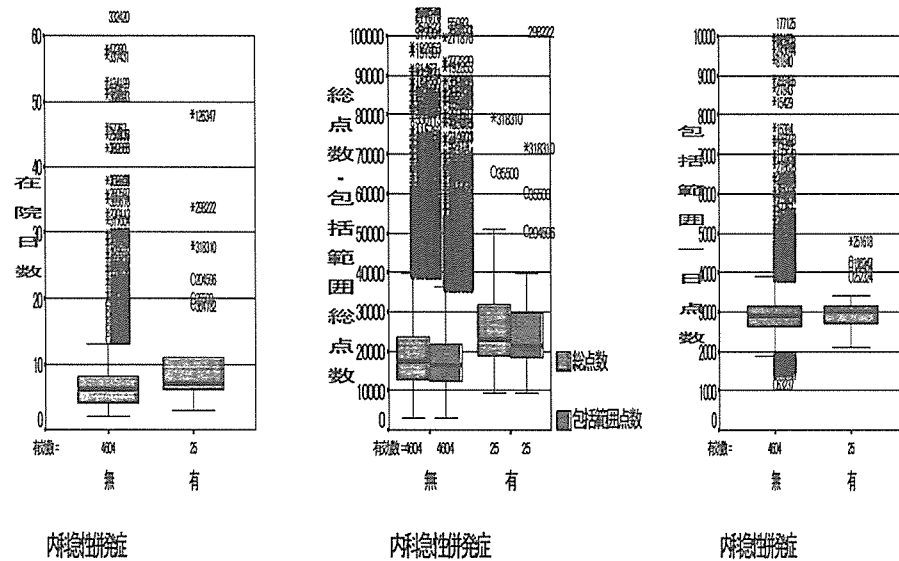


図B群(併存胃十二指腸潰瘍)

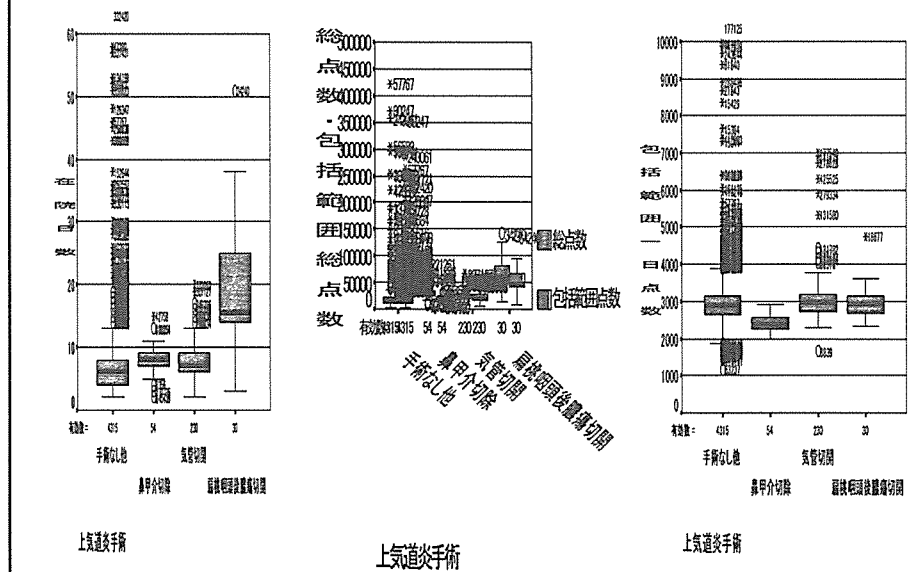


急性入院後併発続発症

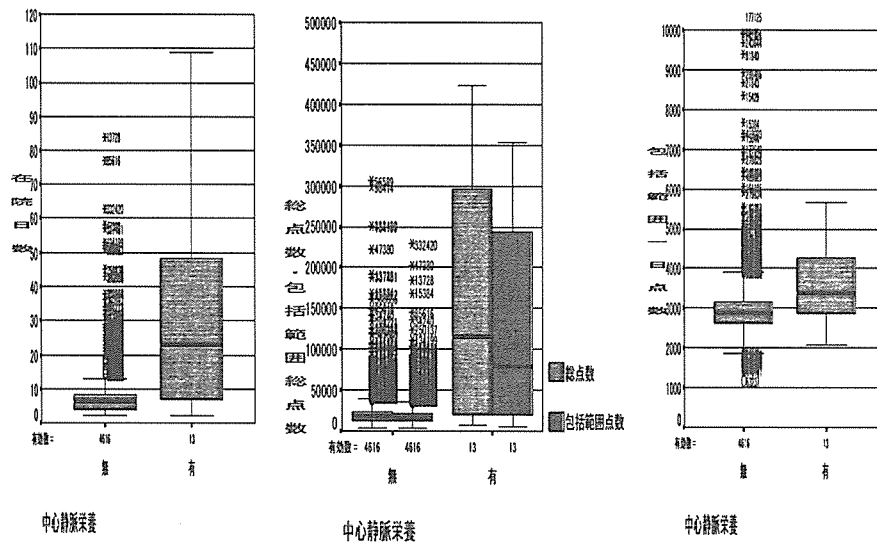
図B群(急性内科併発症)



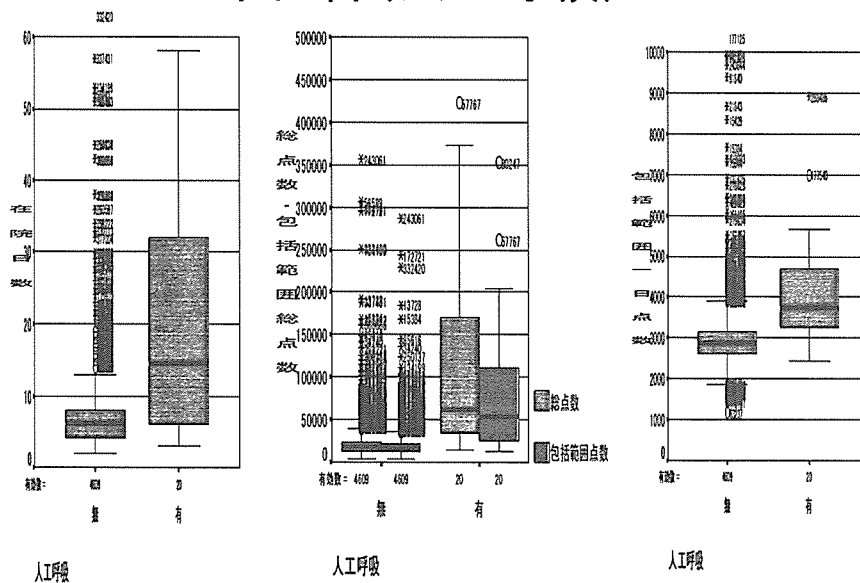
図B群(手術)



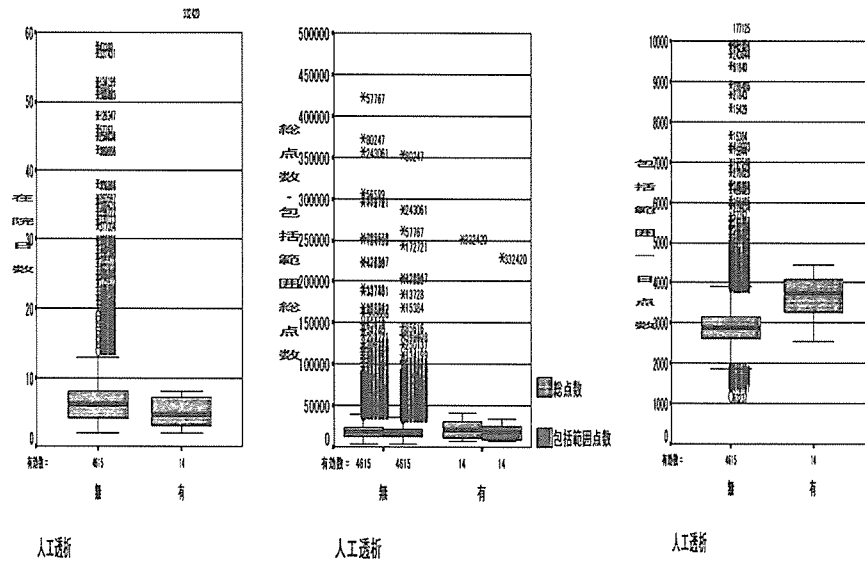
図B群(中心静脈)



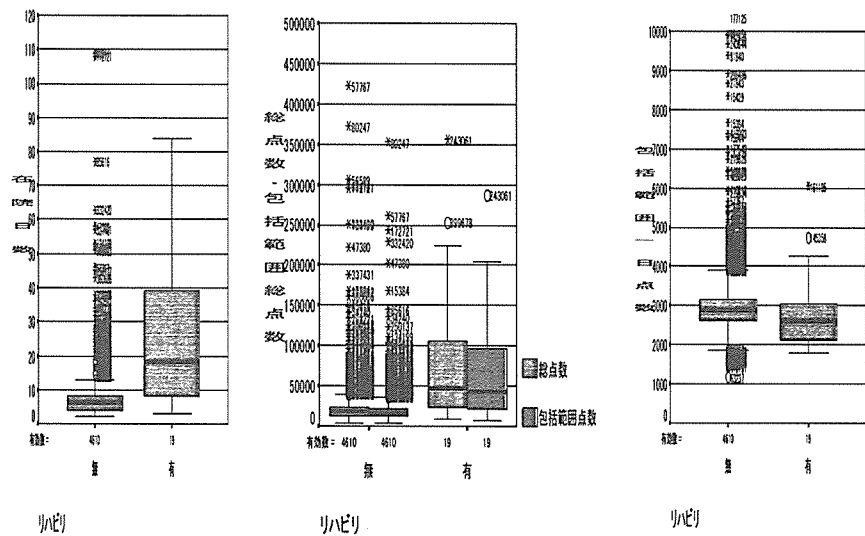
図B群(人工呼吸)



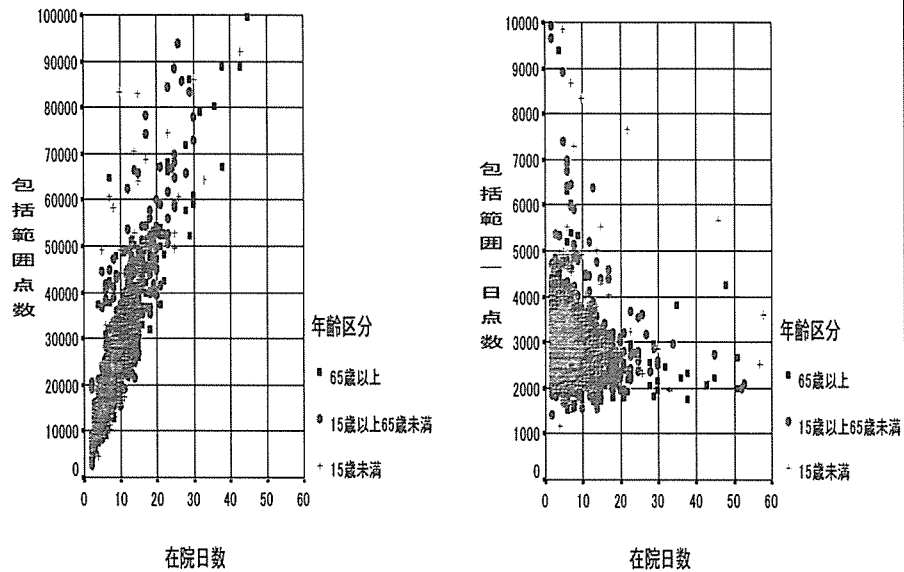
図B群(人工透析)



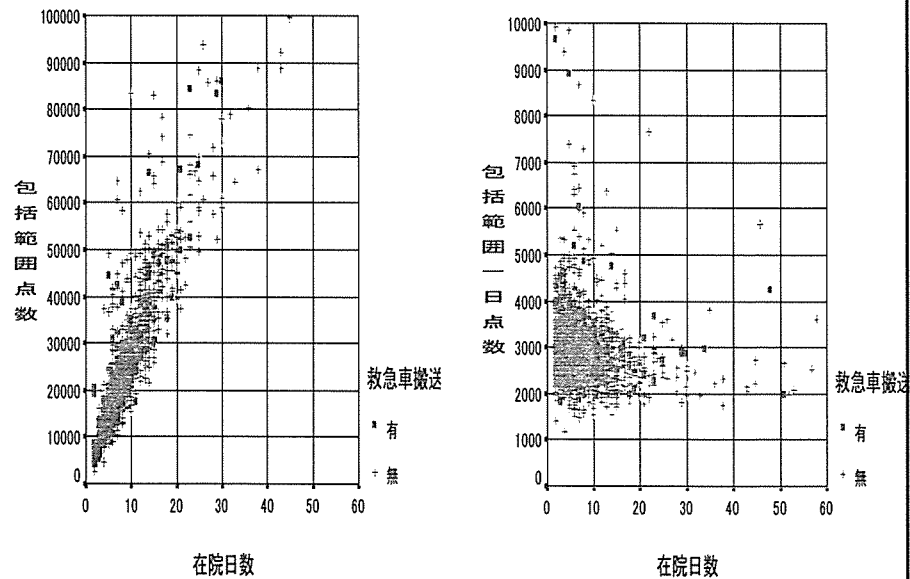
図B群(リハビリ)



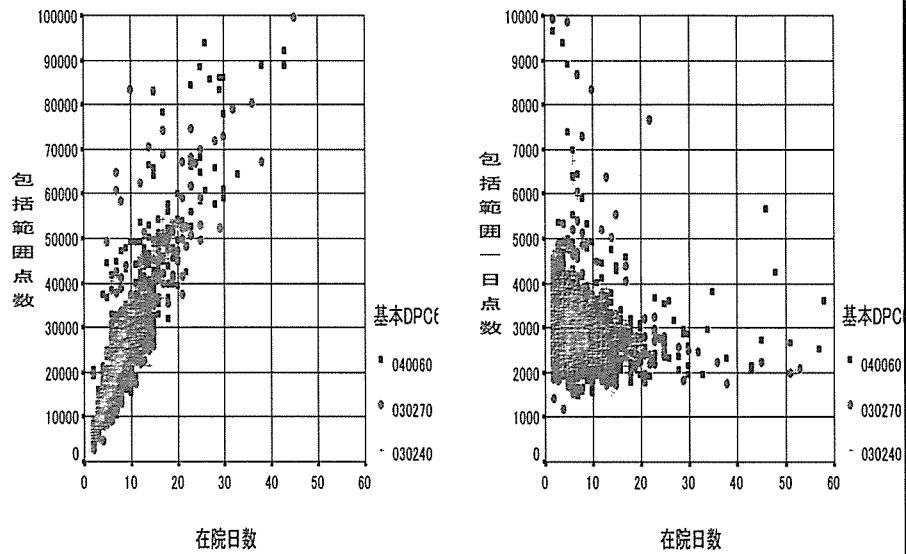
図B群(年齢)



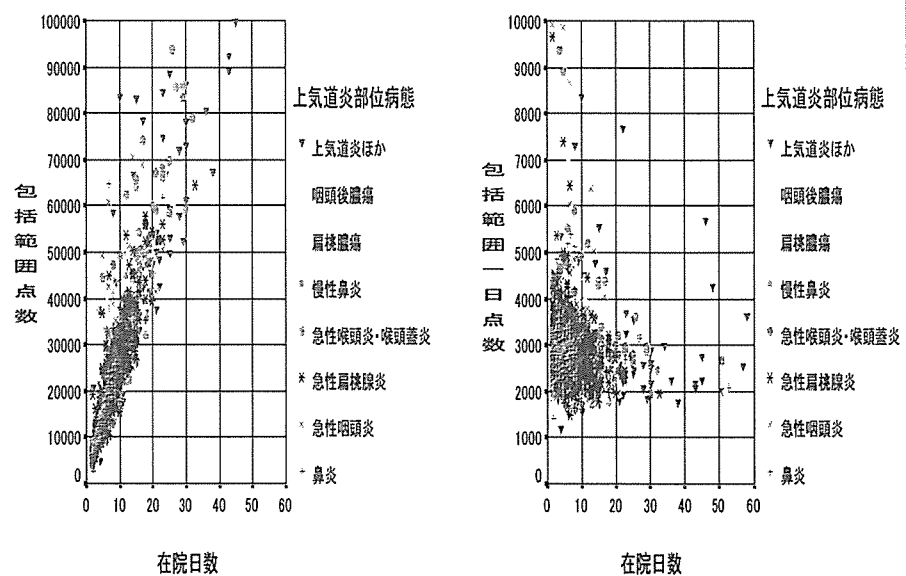
図B群(救急車搬送)



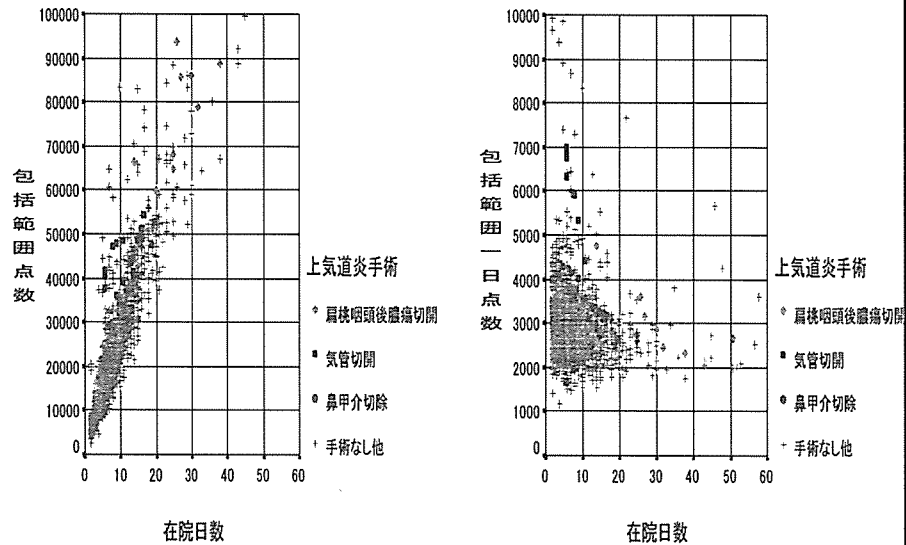
図B群(基本DPC)



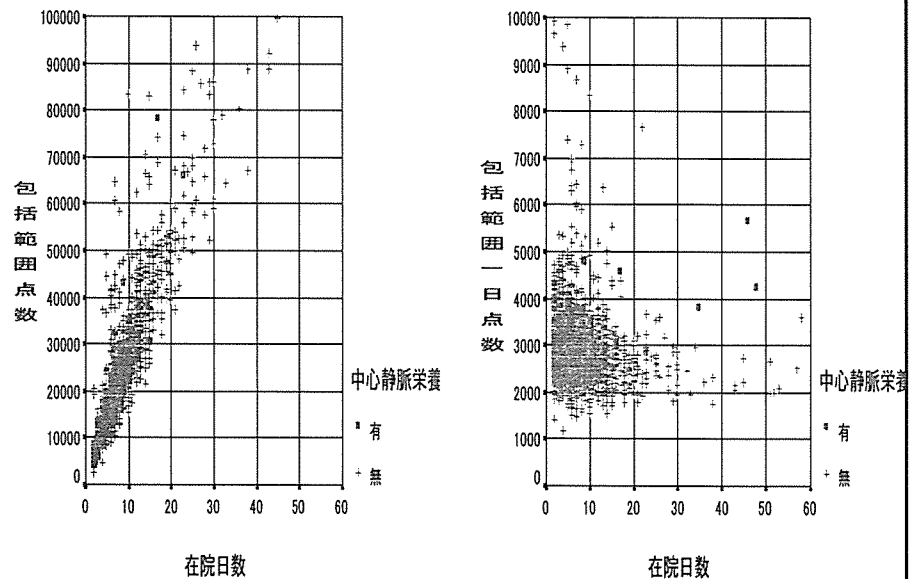
図B群(病態部位)



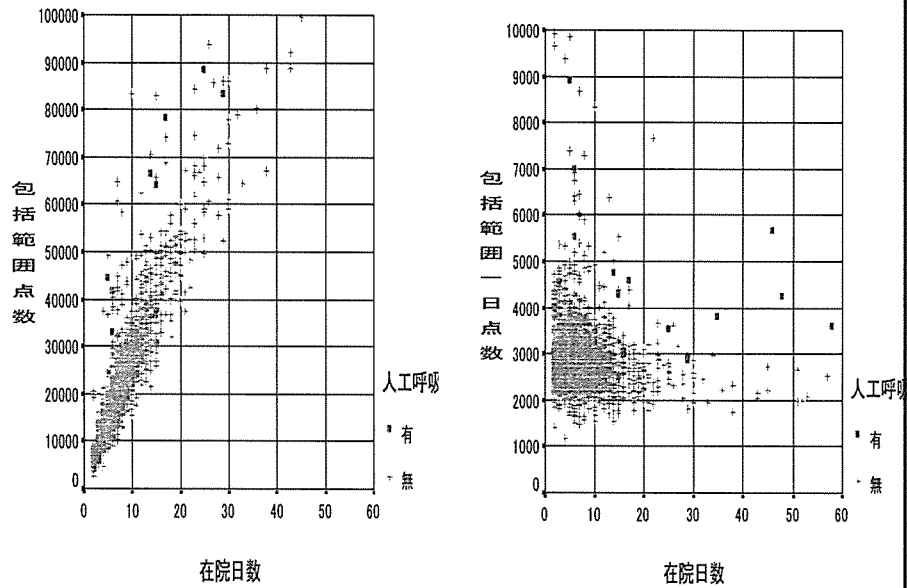
図B群(手術)



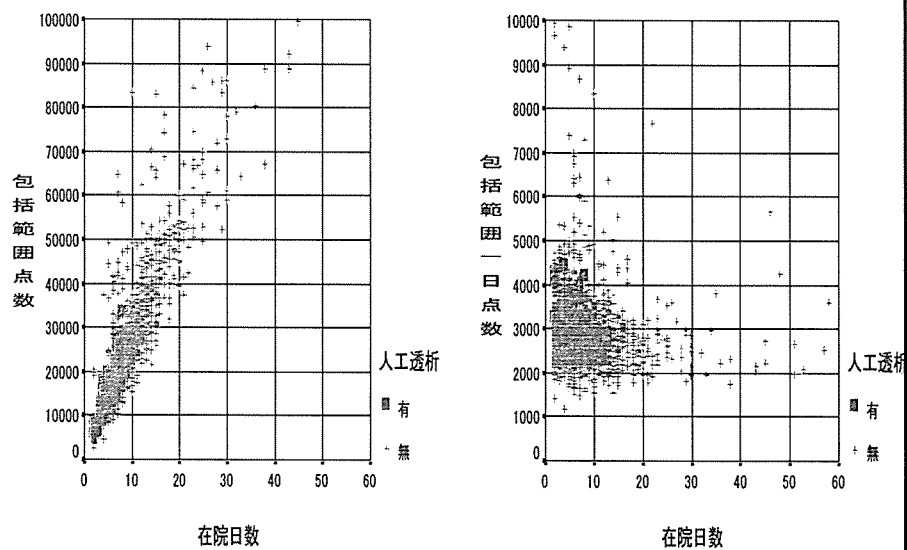
図B群(中心静脈)



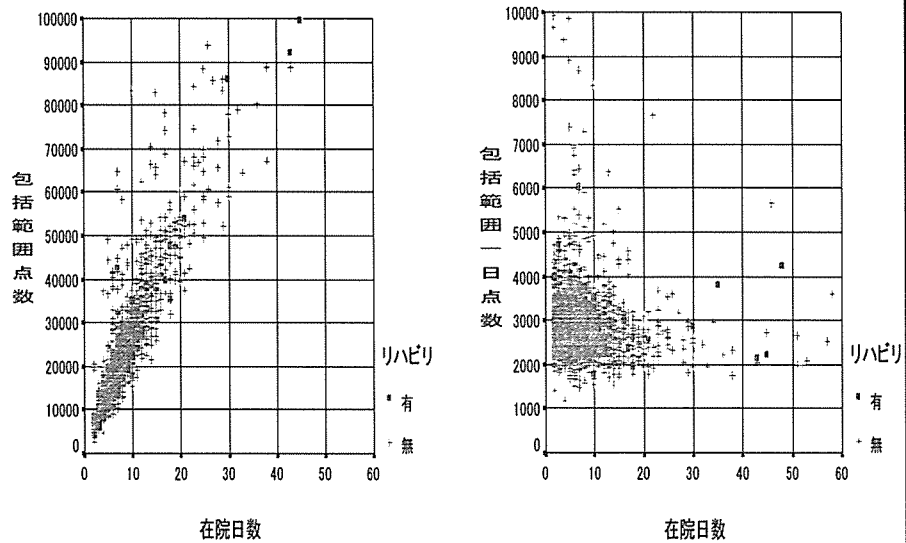
図B群(人工呼吸)



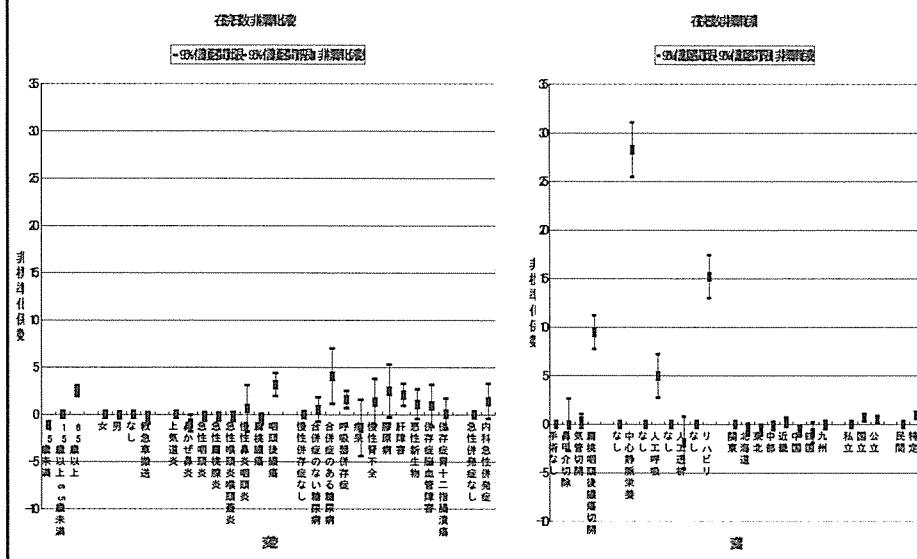
図B群(人工透析)



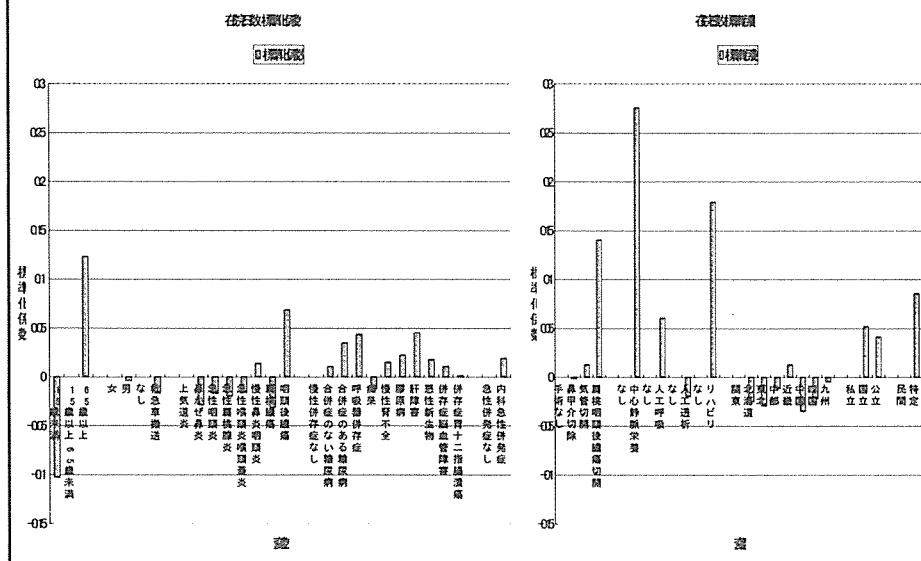
図B群(リハビリ)



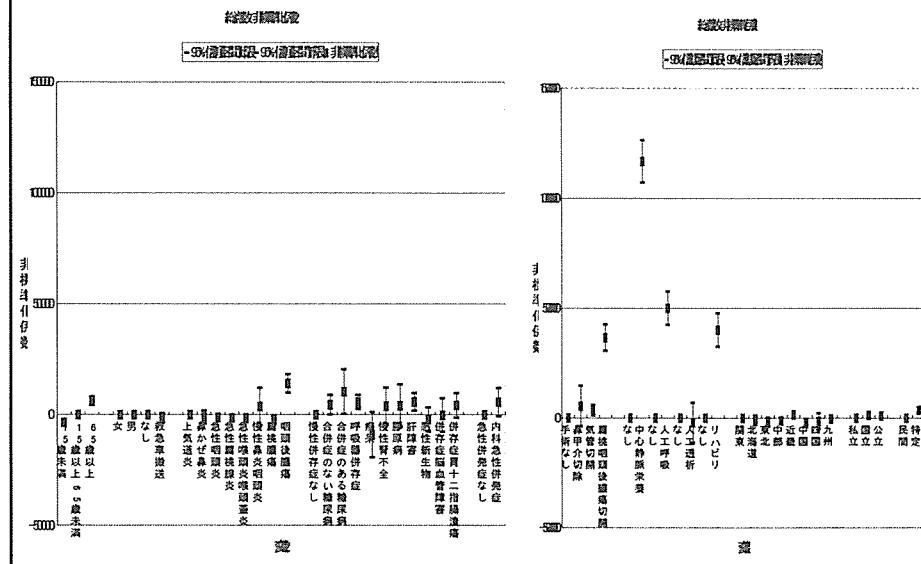
図C群(LOS分析)



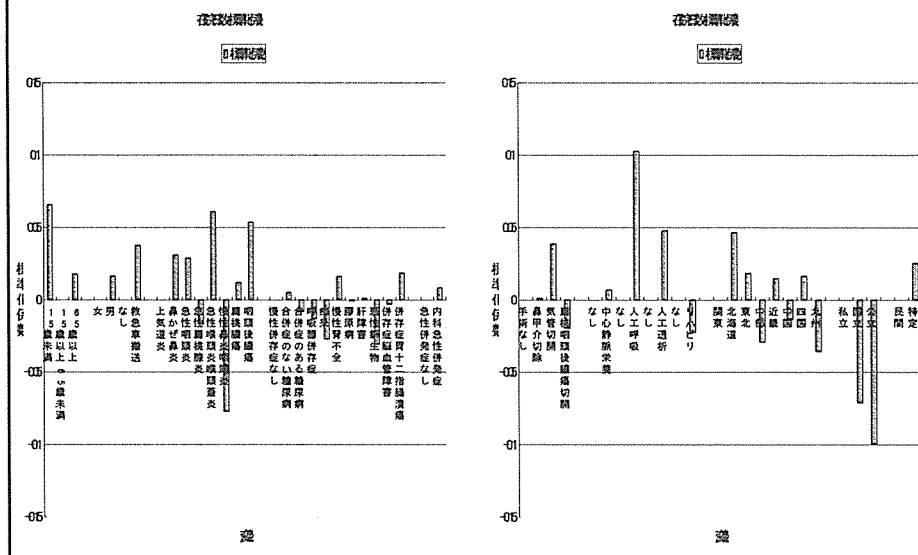
図C群(LOS分析)



図C群(cALL分析)



図C群(dDPC分析)



平成 16 年度厚生科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
診断群分類を活用した医療サービスのコスト推計に関する調査研究
研究報告書

診断群分類の精緻化（支払い分類簡素化の視点から）

MDC4

『インフルエンザ、ウイルス性肺炎（DPC6 桁分類 040070）』

『肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎（DPC6 桁分類 040080）』

『肺、縦隔の感染、膿瘍形成（DPC6 桁分類 040150）』

『呼吸器の結核（DPC6 桁分類 040160）』

『抗酸菌関連疾患（DPC6 桁分類 040170）』

報告者

桑原	一彰	京都大学大学院医学研究科	医療経済学分野	研究協力者
今中	雄一	京都大学大学院医学研究科	医療経済学分野	教授 分担研究者

診断群分類（DPC）の問題点を継続的に分析し、より妥当な評価体制につなげていくことは急務である。臨床分類としての診断群分類を支払い分類として管理可能なものに簡素化しようとする場合、疾患群に投入される資源として何が一番大きな因子（疾患なのか、疾患に投入される治療なのか）なのかを模索することは必要である。今回、肺感染症関連の DPC6 桁コード『インフルエンザ、ウイルス性肺炎（DPC6 桁分類 040070）』、『肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎（DPC6 桁分類 040080）』、『肺、縦隔の感染、膿瘍形成（DPC6 桁分類 040150）』、『呼吸器の結核（DPC6 桁分類 040160）』、『抗酸菌関連疾患（DPC6 桁分類 040170）』を選択し、その分類の妥当性検証を、平成 15 年度 7 月から 10 月にかけて収集されたデータをもとに行った。各医療費関連指標において、処置（中心静脈栄養、人工呼吸・透析など）に配慮（別途独立評価）を要することが判明した。また、臨床分類としての診断群分類を保ちながら、支払い分類方法を妥当に簡素化・効率化する観点において、上述胸腔内炎症からみた臨床疾患群としての基本 DPC に、違いの大きなものはなく、これら基本 DPC の統合の妥当性に問題はないと考えられる。

A.研究背景と目的

平成 15 年度 4 月より特定機能病院において順次支払いに導入された診断群分類（DPC）は、保険医療に精通する臨床専門科集団の意見を参考にしながら、翌 16 年にも見直しが行われ、民間病院の試行的適応されながら今

日に至っている。一方、厚生労働省は診断群分類の支払い評価分類としての妥当性検証と、診断群分類の簡素化に関して検討の意向も表示している。そもそも診断群分類には『臨床的分類』としての意味合いと、『支払い評価分類』としての意味を持たせることが可能であ